

# 大森学園高等学校同窓会 会報

# 丸ころ



Issue on June 1, 2016

VOL.46

発行所：大森学園同窓会  
大田区大森西3-2-12  
大森学園高等学校内  
お問い合わせ：TEL 03(3762)7336(代)  
FAX 03(3766)0314  
Mail：info@moriko-kai.jp  
URL：http://www.moriko-kai.jp/  
発行責任者：大谷正勝  
編集責任者：広報委員会  
題 字：山崎正男先生

## 再録

### 徒弟学校卒業生による 本校創立 五十周年記念座談会

理事長 米澤正倫



学校には国公立学校と私立学校とがあります。それは設置者の違いで分けられています。学ぶことについては、どの学校も文部省が出した学習指導要領に則って授業が行われております。しかし、私立学校には、各校に創立者による理念があり、それを生かしていく教育方針となり特色や伝統となります。本校は中小機械工場、いわゆる町工場が協力して親もとを離れた少年達を働きながら学校に通わせ、ものづくり技術を習得させ自分の力で生きる少年達の育成に努めたのであります。当時のわが国は教育面も生活面も大へん貧しく、高度経済発展を遂げた現在にあつては理解し難い過去であります。その当時の教育実態が、そのまま現在に通用は出来ませんが、工業化社会が生み出した豊

富な価値の多様化は情報化やソフト化となつていくことを考えれば、本校の原点である徒弟学校教育を再認識することは意義のあることと思ひます。本校創立五十周年記念の際、卒業生に出席して頂いて座談会を行いました。その中から徒弟学校で実際に体験した方の思い出話を紹介いたします。紙面の制約がありますので多少要約いたしました。



座談会風景（昭和63年4月3日 旧校舍図書館にて）

#### 府野 栄吉

昭和十四年四月五日、日本青年会館での最初の入学式に参加しました。会社は入新井四丁目にあった大森精機所で当時二十八人入りました。工業学校を卒業（十九年三月）したのは九人でした。そして五月に海兵団へ入り水雷学校へ行き人間魚雷の整備員特殊

教育を受け、山口県の光、広島県の大津島で調整員をやりました。終戦で帰ってきて家業の農業の仕事と自動車学校にも勤めました。子供達が新しいコンピューターの機械を入れて機械をやつていて「親父は機械が明るいから」とおたてられ手伝つております。

#### 菅原 正浩

昭和十五年大森機械工業徒弟学校に応募、秋田から初めて上京しました。この徒弟学校から工学校、工業学校と学校も昇格され、第二本科第二期生として昭和十九年三月に卒業、その後兵役のため田舎へ帰つて出征。終戦後の二十三年にシベリアより復員、公務員として勤務。現在は定年退職（男鹿消防署長）して家におります。

#### 大屋 勇造

私は昭和十五年に徒弟学校に入り、当時会社は和井田製作所に勤務しておりました。また戦後の二十三年に新製の夜間部に入りまして、その第二回の卒業生です。現在は大方方向が変り、東京で弁護士を開業しております。

#### 黒沼 勝三郎

私、産は岩手です。昭和十六年に上京して大森徒弟学校、それから昇格しまして工業学校を十九年に卒業。武井工業所に勤務しておりました。二十年四月十五日の空襲に遭い田舎に帰つて終戦。その後自動車部品販売業をやつて現在に至つております。現在地は弘前です。

## 府野栄吉

昭和十四年入社して一番先に工場長から言われたことは「君たちは昔の丁稚ではない。みんなを指導していられるように。覚えたことを教えられるように勉強しなさい。」ということでした。学校へ通うことが条件で入社したので先輩工員たちが働いていても「行ってきます」と大びらで学校へ行ったことは本心に心の支えになったわけです。最初は大森第二小学校の校庭で青空学習、教科書は無く、ザラ紙に刷ったものを、その都度配られました。「正気歌」という藤田東湖の(五言古詩)等がありました。その後、技能者養成令による『機械の要素』とか『ミリング』なども使われました。とにかく熟練工になるために、いろいろ生懸命勉強してきました。

## 菅原正浩

昭和十五年四月二日、大森機械工業徒弟学校に入りました。私が来たときには既に立派な校舎が建っていました。府野さんの時は設備が遅れていて青空教室や池上本門寺などに宿借りしてあつちつち歩いた先輩から聞いております。私たちのときは立派な校舎が出来て、各地方から生徒が集るまで待

機してました。私は四月二日ですから早かった方です。私たち秋田山形方面の団体が二十何名、職業紹介所の人や、担任の先生がついて、上野公園で引き継ぎし、大森徒弟学校へ来たわけです。学校の寄宿舎に三週間ぐらいたったのではないかと記憶しています。その間によその地域からもだんだんと人が集まりました。校舎の一番うしろの方に見たことも聞いたこともない、最初は何をするとところかわからない、水洗トイレ、があつたのですね。この使い方もわからない。反対に使つてしまつて(笑い)山口先生に教えてもらったものです。あれ穴が反対にあいているものだから穴の方に無理して用足していたというわけです。(笑い)。そんなことで私たちは、恵まれた生徒であつたと思います。その分、先輩方は苦労したり、悩んだりしたと思いますし、もちろん工場主の方にはそれまで大変に苦労されていたと思います。三週間もいると、いろいろ汚れて洗濯しなければならぬ。栄養(共同炊事場)のうしろにあつた物干場で洗濯物を干したりしました。蒸気でわかすお風呂にも入ったり、食堂で食事して三週間ぐらいい。そのうち二三人とか四五人くらいずつ引率されて出て行くようになった。不思議だなと思つていたら、これが各工場へ配置が決つて行く人たちでした。そここうしていると私も呼ばれ、四人ぐらいい、大河原鉄工所に決まりました。新しい寄宿舎で非常に待遇もよく、畳も新しく、夜具も全部新しくしたので、南豆虫に刺されるつらさもわからないですみました。あの当時先輩たちから、古本屋から本買ってくると南豆虫が入っているから買っ

てきてはいけないと戒められたものです。晩になると府野さんがおつしやられた通り学校へ。それでも工場に設置になつてからレントゲン、ツベルクリンなどで十日ぐらいいかりましたか。徐々に府野さんが持つてこられたような教本によつて勉強がはまりました。

## 黒沼勝三郎

学校目指して昭和十六年に上京しました。ここに三ヶ月ほどおりましてしょうか。それから工場に配属になったわけですが、私は場所的に恵まれ学校のすぐ先の武井工業所。社長さんは理解がありまして、とにかくこれからの青年は勉強しなければいけないということ通わせていただきました。職場では夜八時、九時まで仕事をしている連中もあつたのですが、先に風呂に入らしていただき、夕食をとつて毎日、そして三年間続けさせていただきました。学校にも良友にも恵まれ、生涯忘れることが出来ません。戦後も武井さんとはずつとお付き合いさせていただきました。私も第一の故郷としてここは忘れられない地であります。地方にいて多少なりとも、それをもとに現在に至る仕事に励んでいる自分です。

## 大屋勇造

私がこの徒弟学校に応募いたしましたのは、郷里の先輩であつて、この学校の革創期の徒弟委員会時代に関係していた石江宗明という先生がおられました。私は当時満蒙開拓義勇団といつて行く予定であつたわけですが石江先生が学校に来られ、東京に出て仕事と勉強を、しかもお金までいただける学

校が出来たと熱っぽく説かれたので、満蒙開拓義勇団の方はやめて、こちらに来ることになったわけです。この学校に来たときに寄宿舎にしばらくいたような記憶があり、そのときに宮下女史という舎監の先生がおられました。米澤前理事長と宮下先生には、一番面倒みていただきました。宮下先生には水洗便所の掃除の仕方を教つた記憶があります。二週間か三週間いたと思いますが、宮下先生に「おはようございます」というあいさつの仕方から、布団の上げ下ろしもろくに出来なかつたのですが、それらを一々手にとつて教りました。それから和井田製作所の方に配属になり十八年九月までいました。当時この大森工業学校が認可されたと同時に選択をどうするかが話しになりました。そして私たち(和井田製作所)は技能養成会の方で十八年三月までの三年間の養成工の課程を終了し、それから青年学校令に基く青年学校の本科に引き続き移行した記憶があります。

この青年学校へは週間のうち何回も通わなかつたような記憶です。学校へ通わない時は和井田製作所の中の教室で勉強させられました。私は石江先生からこの徒弟学校は非常に優れた学校で単なる職人を養成するのではなく、もつと理論を身につけた職人にならなければならないというわけです。和井田製作所に入つていろいろな機械、施盤からボーリング、仕上げ、研磨と和井田製作所にあつた機会は全部やらされました。一年間はずつと職場が変わり、その中からフライスを専門としました。技術と理論をどういふふうにつけるかも、この学校の教育方針であつたよ



うな気がします。私がおります十六年ごろでして、小山校長先生が都島からおいでになって校長訓話でドイツの技能者の優れた点を聞いたりしました。あと学校の中で印象深かったのは山口先生に終身を、山崎先生に国語と地理を教わったわけですが、各先生方が非常に温かみのあると言いますか、普通の学校にはないものがありました。確かに田舎から出てくる子供たちを扱うわけです。しかも全寮制ならいざ知らず、それぞれの職場に配置されていて、毎日ここで顔を合わせるという勉強の仕方の中で、それぞれの先生の特徴がありました。村井先生には材料力学を教わりました。齋藤つちゃんと言った先生からは数学で、この数学が非常にわかりやすかったという記憶がございます。私は養成三の三年課程を終って昭和十八年九月に辞めたのですが、たまたま、郷里の先輩であった石江先生も学校をそのとき去っておられました。これはお話ししていかどうかわかりませんが、当時この学校の革新期に活躍された方々は若干左翼系統の人がいたとこれはあとで周りに聞いたのですけれども、私、石江先生が学校を去られてからも個人的なお付き合いをさせていただいたためと思うのですが、会社の寮に特高警察から呼び出しを受けました。まだ十六歳ですから思想的なものはありません。なかつたと思うのですが、そんなことで和田製作所を途中で辞めて、徴用令で群馬県の中島飛行機春龍工場に入りました。そしてもう一つ私はこの学校の自慢が出来るのは、わずか三年間しか現場の経験がない、しかも三年間まるまる現場の経験ではなくて、座

学の勉強もさせてもらったわけですが、同じ微用工の中で私が飛び優れて技能を持っていたという認定をされました。当時中島飛行機では東京の三鷹に三鷹研究所を作っている途中でそちらの方に転動しました。ここでフライスをやっていたのですけれども大へん軍の監督官からにらまれていた。そんなことでどうも会社においても私の思つような仕事は出来ないかもしれないと昭和十九年九月、海軍甲種飛行予科練習生で土浦に入隊したのです。



徒弟学校の思い出話は、まだ多く残っておりますが、紙面の都合もありますので、残りはこの機会にさせていただきます。府野さんは、人間魚雷の整備という完璧な仕事で求められる整備員に選ばれました。大屋さんは、飛行機製造という高度な仕事の職場において更に他者より優れていることが認められました。また、他の徒弟学校卒業した方からも戦後、新しい職場において技能が認められ、何歳で覚えたのかと誉められたという思い出話を聞いております。

このように、大森機械工業徒弟学校は、中小工場が協力して設立されたという珍しい形だけではなく、配属された工場で生産現場技能を磨き学校では、理論を学ぶと同時に故郷を離れた生徒同士の暖い交流の場でもありました。青少年育成の画期的なモデルケースであったのであります。

「お便りコーナー」に近況等を奮ってお寄せください。

会長 大谷正勝



同窓の皆様こんにちは、日々息災で過ごしていること拝察いたします。

この会報が皆様のお手元に届く頃には、3月学窓を巣立った皆さんは、進学先あるいは就職先等で、次の目標に向け力強く歩んでいることでしょう。また4月に大森学園生の仲間入りをされた皆さんは学園の雰囲気にも慣れ、学業に諸活動に日々熱心に取り組んでいることと思います。

新たなスタート台に立たれた皆さん並びに会員の皆様にとり、本年度も明るく充実した年でありますよう、心より祈念申し上げます。さて、この度はもりこう会（以下本会と称す）の活動状況について報告致します。

一つは、各世代会員のご意見をバランスよく反映できる役員会づくりを目標に、活動を進めております。本会は、母校70有余年の校歴が示すように18歳から80歳をこえる方々まで、大変幅広い年齢、世代の皆さんで構成されております。

各世代会員のご意見を活動に反映するには、役員会は可能な限り様々な世代の方々に構成することが望ましいのではと思っております。

これまで、この要件を満たすに至っておりませんでしたので、僅かでも改めることを目標に、年来先生方のご協力のもと、欠員のある世代の方々獲得に力を注いでまいりました。

幸その功が奏し、多少は目標に近づけたのではと思っております。これからも均衡のとれた役員構成を目指し、鋭意努力をさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

二つ目は、情報ツールの一つである会報紙面のリニューアルを行うことあります。



校長 畑澤正一

「もりこう会」  
会員の皆様へ

見直しのポイントは次号会報より仮称「お便りコーナー」を設け、様々な世代の皆さんに、在学時代の思い出、や、近況報告、等をお寄せいただき、紙面を通して会員間の相互理解と交流を促進したいと思っています。  
このことがキッカケとなり同窓会への関心が一層高まり、活動の更なる活性化に繋がっているれば、私達役員にとりこれに優る喜びはありません。  
尚、本件に関しては7ページに「会報「もりこう」の原稿募集について」を載せましたのでご確認ください。  
以上、本会活動の一端を報告致しました。皆様には日常業務に、学業にとお忙しいこととは存じますが、引き続きご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。  
最後までとなりましたが、会員各位のご健勝とご活躍を祈念申し上げご挨拶と致します。

「もりこう会」の皆様には日頃より大森学園高等学校の教育にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。今後も本校の教育向上のため卒業生の方々の多大なるご支援を期待するところです。

27年度3月卒業生を加えた卒業生総数を算出してみました。総数は26、163名(内訳：定時制2、833名、全日制23、330名)で、平成元年以降の卒業生数は9、781名(普通科698名含む)であり、次の卒業生を加えると1万人を超え、全体の38%程になります。

平成元年卒業生は今年45歳になりますが、一般的に40代は油の乗り切った年代で、責任も重く、日夜仕事に追われる最も多忙な年代であり、心身を十分にコントロールし、仕事に取り組んでいることと想像します。

ただし、今後のもりこう会の発展を考えると、最も忙しいと言われる年代に期待するところ大かと思われれます。現在の役員の方々も機会ある毎に若手に声をかけるなど努力されているようですが、今後益々ベテランと若手(?)のギャップは必須と思われれます。普通科も9期生が卒業しました。工業科・普通科、男・女、自薦・他薦問わず、若い力を必要としていますので、手を挙げてくれる方が一人でも多く現れますことを期待しています。

年度末3月の新聞各紙及びテレビ報道で、昨年10月5日・6日本校で実施の「中学校教員対象入試説明会」の席上、図書カードや弁当等飲食の提供という不適切な行為があったとの指摘を私どもが受けたことはす

にご存じのことと思います。私どもは開催場所や開始時間(午後6時から)を考慮し、交通費としての図書カード(2,000円)や弁当の支給は社会通念の範囲内と考えておりましたが、特に中学の先生方の公務員というお立場を察すると行き過ぎであったと深く反省致しております。お酒は実際には遠慮されたり、儀礼的に口をつけたりする程度の先生が殆どであったという事実に鑑みても、今更ながら私どもの軽率さを痛感せざるを得ません。今後は金銭や飲食を伴うことは厳として慎んでまいります。

この度の一件では、在校生と新人生並びにその保護者の皆様には最もご迷惑をおかけしたと悔やんでおります。信用を失墜させたことを衷心より詫言申し上げ、併せて、今後は信頼を回復・構築できるよう、責任をもつて、精一杯努力することをここに誓います。同様に、多くの卒業生の皆様にもご心配をおかけしましたこと、心より陳謝いたします。

大変恐縮ではございますが、私どもも襟を正して出直しますので、今後とも大森学園にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

被災地は今

教頭 安達毅

震災以来、大森学園では生徒の有志を募って毎年被災地を訪問しています。実際に訪問することで被災地の今を再確認し「自分



たちに継続して出来ることは何か?」「東京に居て出来ることは無いか?」を見つめる・考えることが目的です。平成23年12月22日~24日の第一回訪問から昨年で五回目。参加者は延べ17名となりました。震災直後の二年間は、津波に流され不足している車いすを被災地に届け、現地で使用されている車いすをメンテナンスする事を中心に活動。以降は、大打撃を受けた養殖業の復興の一助になればと、養殖で使用するロープのメンテナンスや錘の製作等を手伝わせて頂いています。

今年の三月の末に嬉しいニュースが飛び込んできました。毎年訪問した際にお世話になっている宮城県漁協志津川支所戸倉出張所が、環境に配慮したカキの養殖に取り組み団体としてASC認証と呼ばれる国際認証を日本で初めて取得したそうです。戸倉出張所では、養殖いかだを震災前の三分の一程度に減らして漁場の環境を改善し、質の良いカキを生産していくという取り組みを行ってきました。「ASC認証」はWWF(世界自然保護基金)などの支援を受けて、平成22年にオランダで設立された非営利団体の水産養殖管理協議会が、環境に配慮した養殖に



取り組む団体などを認証するものです。)豊かな海の自然を守りつつ経済的にも持続可能な水産業の実現という真の復興をめざして、WFWジャパンと協働でプロジェクトを進めてきた努力が実りました。

養殖いかだを減らすと云う決断に至るまでには多くの議論や苦難があったと思われませんが、それ以外の事でも被災地は決断の連続だと思えます。防災庁舎を震災遺構として残す。町全体を高台に移転させる。高い防波堤を建造して町を守る。それぞれのゴールは「状況を震災前に戻す」という単純な事ではない様です。「単に復興という言葉では言い尽くせない」志津川の新たな挑戦を見守っていきたく考えます。



# あの先生は今

過去・現在・未来

小用 誠



昭和50年4月に大森工業高校に勤務した私ですが、あれから41年が経過し、この3月に無事に定年を迎えることになりました。今思えば両親に大森工業高校で「学校の先生をする」と言ったときにひと言「無理」と言われたのを覚えています。私が機械科の教師になったのは小学校の高学年の頃から中学生にかけて建設機械や車やバイク、船舶、飛行機そしてロケットなどに興味を持っていたからです。同級生がテレビまんの主人公(鉄腕アトムや鉄人28号、仮面ライダー1号などの切り抜きを下敷きに挟んでいた頃、私はリトルホンダという自転車とバイクの中間の機能を持つ乗り物の切り抜きを挟んでいたかなり変わった小学生でした。1964年、私が小学校の6年生のときに東京オリンピックが開催され、教室に

あったカラーテレビ(オリンピックを期に白黒のテレビからカラーテレビに変わった時代)で開会式や入場行進を見たことや校庭で見上げた自衛隊のジェット機が青空に描いた五輪のマークが鮮烈に蘇ります。

そのような私が機械に興味を持ち続け工業高校から工業大学へと進み、大森工業高校に勤務することになりました。機械について教えられることを楽しみにしながら教師生活がスタートしたのです。コンクリートの狭い校庭に金網が張ってある教室の窓、リーゼントに学ランの生徒達。環境の変化に戸惑いながらのスタートでした。平成26年度に最後の卒業生を出し、担任としての卒業生は500人を超えました。この41年間で振り返るとさまざまなおもしろい思い出が蘇ります。多くの人たちから「おめでとう」と言われます。寂しい気持ちもありますが、今後のことを考える良い時間になると考えております。

今後学校がますます発展をしていくことを期待しております。全ての関係者各位に感謝申し上げます。

## 思い出

柏木 二郎



同窓生の皆さんこんにちは。私は、昭和50年に大森工業高等学校に体育教諭として赴任し1年間専任講師として勤めさせて頂き翌年より専任教諭として、担任・クラブ顧問を任せられ指導に専念し、今現在に至ります。

現役時代高校から始めたレスリングを大学迄、自信に満ちた体力で意気揚々と母校のレスリング道場に足を踏み入れクラブ部員を集め自己紹介後、さっそく練習開始、部員達は、あっけにとられた様子でただ言われた通りするしぐさはおどおどしながら仲間同士で、こそこそ話をしている様子、「おいヤバイヨ、現役バリバリのレスラーそれも国士館大卒だぞー絶対にヤバイヨ」体操、基礎体力打ち込み後、部員全員とスパリングを相手にし、様子をうかがうと、一人軽量の3年生が目につきその生徒と常にマンツーマンで毎日練習をすることになりその後、彼も頭角を表し素質を發揮するようになり、大会においても都大会は常に優勝、関東大会も上位に入賞、全国大会に東京都代表で出場する事になり全国大会で、初めて上位入賞できるほどの実力者であった。1回戦は万全な試合運びで順当に勝ち上がり2回戦目は関東チャンピオンの強豪で、今大会優勝候補である選手(彼は、のち自衛隊体育学校、に進

み1984年・昭和59年第23回・ロサンゼルスオリンピックに出場し48級銀メダルを獲得した入江隆史選手）激戦の結果判定勝利を勝ち取り周りの選手、監督等に一目置かれ先生の学校所属の48kg級の生徒さん強いですねと、会場で他校の監督と逢う度にどんな練習をしているのか、練習時間は、何時間しているのかと聞かれる程の状態でした。優勝候補を下したものですから、当然決勝まで勝ち上がつてくると予測される状況でした。いよいよ3回戦目、九州代表の選手と対戦となりゴングが鳴り試合開始です。（いまだに鮮明に覚えている試合内容）

先制ポイント、投げ技すべて決まりポイントを重ね12対0でリード残り30秒で1ラウンド終了マジカ、攻撃してグラウンドポジションの際、巻き技に掛ってしまい相手に抑え込まれ逆転フォール負けとなる。この時の時代は、今と違ってテクニカルフォール（大差判定）点差の勝敗が無い時代で、試合でフォールか3ピリオド3分間フルに戦うルールでした。本人はもちろん、私自身も油断大敵この厳しさ一瞬ですべてが終わってしまふこの屈辱に煽られ、今後、生徒の為、学校の為、レスリングを指導する気持ちが高まり一途に頑張つてこれまで来られたと思います。

進学してほしかった選手でしたが、この選手は、経済的理由により高校卒業

後学校幹旋で就職し、学校関連実習教材の材料を手掛ける企業に進み、転職その後、残念ですが白血病で他界しました。）

レスリング部OB・同窓生として良く仲間と学校に足を運び練習に参加し、応援していただきました。私の勤続もこれまでに継続できたのも、その後毎日の練習に耐え続けて頑張つた現役時の良き学校生活があったからこそだと思います。感謝いたしております。

追伸、平成28年度2月21日、発起人OBの23期生62年度卒・白井正良氏によりレスリング部創部50周年・私の勇退記念を立ち上げて頂き理事長、副理事長始め学校関係者、レスリング協会関係者、大森学園チビッコ関係者はじめOBの皆様方のご協力、ご理解により大盛況にとどころりなく開催する事が出来ましたことに御礼申し上げます。

最後に、私の指導のもと頑張つて耐え難きを耐え、大森工（旧）・大森学園高等学校を卒業され、社会人の一員として御活躍されておられるOB・OG皆様方の顔を見られて、非常に嬉しく思います。まだ2年常勤講師として学校に勤務させて頂けるようになりますのでOBの皆様、是非学校に来校し後輩の練習を見学に来て下さい。お待ちしております。

## 光陰矢の如し

尾形 賢一



この四月に転居をすることになり、荷物を整理していた折りに担任をしていた時代の卒業アルバムが数冊出てまいりました。ページを開くと懐かしい顔が微笑んでいます。一瞬時間は止まりその時代へタイムスリップ。思い出が頭の中を駆け巡ります。

三十八年前大森工業高校に勤務させて頂くことが決まり、教員としての人生がスタートをしました。最初は写真部と剣道部を兼任し、その後アマチュア無線部、サッカー部の顧問となりました。お陰様で最初の頃の生徒とも今も親交があり、時折お誘いを受けます。生徒と言っても既に五十の坂を過ぎ、立派に家庭を築いていますが集うと屈託のない笑顔が溢れ、瞬時にして高校時代の思い出話に花が咲き、そこには頭が白くなり薄くなつた高校生がいます。

写真部の撮影合宿などは当時としては特別に許可を頂いて京都、能登半島、白川郷高山、そして、それこ後に3、11の震災で大きな被害を受けた宮古から仙台に至る太平洋岸の漁港を廻つて働く人

たちの写真を撮つてまいりました。当時はアナログの時代ですから当然フィルムカメラ。宿の押し入れにもぐり込んでダークバックの中で現像タンクにフィルムを入れて現像。夕食後にプロジェクターにかけて全員で批評会。そして翌日再撮影。今考えればよくもあのような大変で面倒くさい作業を合宿先で行つたと感心します。自分たちのカメラレンズ式以外にフィルム現像のための機材や薬品は結構な量で重さになります。無茶を言った私の我が儘を聞き入れてくれた当時の部員のバイタリティには頭が下がります。

また、アマチュア無線部が移動局（学校を離れて移動運用をすること）をしてる時にツーリングをしていたライダーから「仲間が事故を起こしたので救急車を呼んで欲しい」と頼まれ（当時は携帯電話のない時代）緊急無線で救急車を呼んだこともありました。

さまざまなお思い出が詰まつた大森工業として大森学園。「光陰矢のごとし」と言いますが、月日の経つのは速いもので職を奉じて三十八年、この三月に定年を迎えることとなりました。曲り形にも最後まで勤務できたのも今まで支えて下さつた職場の皆様、そしてさまざまな形で繋がつてきた卒業生のお陰と感謝しております。もう暫くは続けて勤務させて頂きますのでこの文章を読まれて「久し振りに尾形に会つてやるか」とお思いになつた卒業生の皆様、ご連絡をお待ちしております。



新役員紹介

浅沼 徹



初めまして、平成7年電気科を卒業しました浅沼徹と申します。昨年、役員となりました。今回、もりこう会の役員になったきっかけは、「昨年のキャリアセミナーで、当時の私の担任でもあった棚山先生のクラスで、お話しをさせていただいたことです。そのような年齢になつたのだと改めて感じました。

時が過ぎるのは実に早いもので、今年で卒業から21年が経ちます。森工での3年間は、今でも記憶に残っていることが多く、とても充実した日々でした。

在学中の部活動では、1年時は卓球部で活動しましたが、その後、同級生の影響と好奇心で陸上競技部に転部。最初は怪我の連続で、継続できるか不安でしたが、当時、畑澤先生や先輩方に長距離走のいろはを教えていただきました。今でも走り続けていられるのは、この時のご指導のおかげです。また、勉学では友人と日々競い合い、資格試験が近づく、放課後には電気科の先生方から、熱

心に遅くまで教えていただきました。

当時は、千葉県内の実家から2時間程かけて通学していましたが、私にとっては何事にも生懸命にさせてくれた、まさに「不屈の精神」を学ばせてくれた学校でした。

卒業後は、東京電力に入社し、現在は給電所というところで電力系統の運用・操作等の業務に携わっています。

微力ではありますが、母校ならびにもりこう会のお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

須山 健一



こんにちは。平成6年情報技術科卒業(南部学級第号卒業生)の須山健一です。部活は、卓球部にいました。担任の南部先生は、熱血教師まつしぐら見たいな感じの生徒思いの先生でした。

簡単ですが、私の経歴です。卒業後は、建築関係の専門学校に進み、大手ハウスメーカーに就職しましたが「何かが違う・・・」と思ひ、高校時代とは真逆に猛勉強をして建築士の資格を取り、それに輪をかけて「一級建築施工管理技士の資格を取得し、地場のゼネコ」に再就職をしました。

昨年から、実家稼業に戻り建設事業部を立ち上げて新築・リフォーム等の仕事をしております。

現在は新校舎ですが、当時は校庭側の窓には金網が貼ってあり、朝礼時などに実習服を着ていると異様な光景が今でも思い出します。ものすごく厳しい学校に入学したんだなあ・・・なんて思いましたが、今ではこの学校に入学したからこそ、今の自分が居ると思っております。特に心に残っている授業は、電気の実習でした。実習後は毎回レポートを提出し、それも万年筆で書かせる驚異的な報告書・・・間違いで

修正液なんかは使っていないといけない・・・いつもいつも真剣に書いておりました(笑)でも、このような経験があったからこそ社会に出ても報告書も何なりと期日通りに提出が出来、癖が付きまして。これもこの時の実習レポートが役に立ったのでしよう。在校生の皆様も是非期日通りを守ってください。

卒業して早22年がたちましたが、卒業後も学校行事に携われることを嬉しく思います。これからは、大森学園同窓会(もりこう会)を盛り上げて行きますので、是非在校生の皆様も卒業後はお力をお借りできればと思います。

会報「もりこう」の原稿募集について

会長 大谷正勝  
役員一同

「もりこう会」活動のさらなる活性化に繋げる一環として、会員の皆様より下記の内容で原稿を募集します。皆様方にはご多用中のこととは存じますが、より良い紙面づくりにご協力をお願い申し上げます。

記

募集要領

1. 字数 400字詰め原稿用紙、1枚程度とします。
2. 内容
  - ① 在学中の思い出【学習、部活動、ボランティア活動など】
  - ② 近況報告【今学んでいること、従事している仕事、恩師または同窓生との交流など】
3. 注意事項
  - ① 本会会則を順守したものとします。【会則は本会ホームページで確認ください】
  - ② 原稿にはお名前、住所、電話番号、卒業学科、卒業年度、担任氏名を記入して下さい。  
ただし会報にはお名前、卒業学科、卒業年度のみ掲載とします。
  - ③ 顔写真など原稿に関わる写真を掲載希望の方はお送りください。
  - ④ 会報に掲載の可否判断は、役員会一任とします。
4. 提出日 随時とします。
5. 送り先 封筒に会報「もりこう」原稿と表記のうえ郵送、または本会 E-mail 宛にお送りください。

〒143-0015 東京都大田区大森西3-2-12  
大森学園高等学校 もりこう会事務局 TEL:03-3762-7336 FAX:03-3766-0314  
E-mail: info@moriko-kai.jp

追記: 次に関わる原稿は、本会趣旨に反しますのでお受けできません。政治、宗教に関わるもの。侮辱、誹謗中傷に関わるもの。プライバシーに関するもの。営利目的に関するもの。その他公序良俗に反するものなど。





# もりこう会ならびに奨学基金へのご支援ご協力のお願いについて

会長 大谷正勝  
役員一同

もりこう会には、日頃より温かいご支援とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

本年もここに関係各位のご協力により、会報 46 号をお手元にお届けすることが出来ました。

本会では、その他ホームページの運営、総会、懇親会の開催など、様々な活動を通して母校の現況、卒業生間の交流、消息等をお知らせ致しております。

これからも、会報やホームページの活用と総会、懇親会などを通して、情報提供や各種の催しに積極的に取り組んでまいり所存です。今後とも、よろしくご協力申し上げます。

さて、本会では会報送付時、本会へのご寄付ならびに「潮の光」奨学基金へのご支援をお願いしておりますが、これに対して会員の皆様からは、毎年温かいご支援、ご協力をいただいております。ここに改めて皆様のご厚情にお礼を申し上げます。

就いてはこの度も、経済社会環境の厳しい折、誠に恐縮ではございますが、倍旧のご支援ご協力を賜りますよう、役員一同心よりご協力申し上げます。

## 平成27年度 もりこう会 決算書

(自:平成27年4月1日~至:平成28年3月31日)

### 収入の部

科目	予算	決算	差異	摘要	
会費等収入	①1年生会費収入	1,551,600	1,508,700	42,900	300円×12か月×419名
	②2年生会費収入	1,479,600	1,459,800	19,800	300円×12か月×406名
	③3年生会費収入	2,721,600	2,672,600	49,000	700円×12か月×318名
	④寄付金収入	300,000	474,000	▲174,000	111名
	⑤受取利息収入	10,000	3,471	6,529	普通預金・定期預金・有価証券
	⑥過年度会費収入	0	0	0	
	⑦雑収入	0	0	0	
当年度収入合計	6,062,800	6,118,571	▲55,771		
前年度繰越資金	9,294,175	9,294,175	-----		
収入の部合計	15,356,975	15,412,746	▲55,771		

### 支出の部

科目	予算	決算	差異	摘要	
学校等補助費	①設備補助費	0	0	0	
	②行事補助費	200,000	200,000	0	体育祭・学園祭補助
	③課外活動補助費	300,000	300,000	0	交友会
	④クラス会援助費	100,000	10,000	90,000	1件
	⑤卒業記念品費	500,000	426,816	73,184	卒業証書ホルダー2年分
	⑥その他の補助費	100,000	0	100,000	
運営費	①会報発行費	1,300,000	1,156,141	143,859	郵送料含む
	②総会費	400,000	430,536	▲30,536	総会・懇親会費用
	③アルムニ広場	100,000	46,454	53,546	会場費用
	④会議費	200,000	119,301	80,699	役員会開催費用
	⑤ホームページ維持費	100,000	81,216	18,784	サーバー利用料(年間契約)
	⑥交通費	300,000	250,000	50,000	役員交通費
	⑦事務局費	50,000	42,567	7,433	切手・文具等
	⑧慶弔費	150,000	66,200	83,800	祝い金1件・香典4件・生花1件
	⑨キャリアミナ運営費	200,000	200,000	0	懇親会費
	⑩雑費	50,000	23,235	26,765	振込手数料他
予備費	100,000	0	100,000		
積立金	①同窓会維持積立金	2,000,000	2,000,000	0	
	②記念事業積立金	5,000,000	5,000,000	0	
当年度支出合計	11,150,000	10,352,466	797,534		
次年度繰越金	4,206,975	5,060,280	▲853,305		
支出の部合計	15,356,975	15,412,746	▲55,771		



ご協力ありがとうございました

大森学園(旧大森工業)  
高等学校レスリング部  
**50周年記念式典**  
部長 柏木先生 勇退式

さる、平成28年2月20日(日)に東京品川にある新高輪グランドホテルにおいて、標記の式典を行いました。

大森学園から米澤理事長、井上副理事長両名のご出席、現役の先生方々も数名出席していただきました。

また、卒業生及び部員(保護者)、(キッズ保護者)もお祝いに駆けつけていただき、総勢80余名の大きなパーティーになりました。



大森学園(旧大森工業)高等学校 レスリング部創立50周年記念式典  
レスリング部部長 柏木二郎教諭 勇退式



私も30年前に大森工業高等学校に入学し、レスリング部に入部し、柏木先生の指導の下、3年間汗を流しました。苦しいときもありましたが、今は、楽しかった思い出となっています。今でも、月に1、2回は練習に伺ってませんが、柏木先生の指導の声を聞くと、当時を思い出します。本当にありがとうございました。また、今回は、50周年記念でしたが、60、70周年と続いてほしいです。

さて、パーティーの最後は、柏木先生夫妻への花束贈呈、挨拶で締めくくりました。今まで長い間、本当にご苦労様でした。

まだまだ、大森学園レスリング部は、続きます!!

みなさまの暖かい応援を引き続きお願いし、あと少し、柏木先生よろしくお祈りします。

皆様の応援を末永くよろしくお願い致します。

発起人代表 白井 正良

OB便り  
**私の大森学園での一番の思い出**



私の大森学園での1番の思い出は、サッカー部での活動です。

私たちが3年生の時に4年ぶりの都大会に出場することができました。

尊敬できる先生方に出会い、3年間激しく、厳しい練習をなんでも言い合える熱い仲間たちと切磋琢磨できたことが大森学園での最高の思い出です。ありがとうございました。

私は今、大森学園での3年間で学んだ「挨拶の大切さ」や「人とのつながりの大切さ」、「思いやりの心」という当たり前ですが、常に当たり前にやるのが難しいことを大切に、大好きなサッカーをやりながら教師を目指して必死に勉強しているところです。

今年、国際武道大学サッカー部で4年生になりますが、一つ上のステージでサッカーができるように大森学園での仲間と同様に熱い監督はじめチームスタッフの方々、そして、かけがえない仲間たちと課題を一つずつ解決し、しっかりと結果を残していきたいと思っております。

大森学園で培った精神で、目標を達成していくために「人として、当たり前」のことに当たり前にやり、1分1秒も無駄にすることなく、目の前の出来事に対して全力で必死に取り組んでいきます。」

教師になるという夢にも努力無限!

2012年度卒業 貝川 翔太

**活躍したクラブ**

**レスリング部**

レスリング部は、基本的に年間を通して活動し、OFFの期間がありません。



27年度の試合を中心に報告します。

5月は、6月に行われる関東大会の予選が月初めにあり、本大会には3名が出場しました。他に、8月に行われる全国高校生グレコローマン選手権の予選もあり本大会にはこちらも3名が出場。

6月は、都総体の学校対抗戦と個人対抗戦。個人対抗戦で1名出場しました。

7月は、国体予選会の1試合があり1名優勝したのですが、都の選抜で出場はなりませんでした。

8月は、全国総体と全国グレコの本大会がそれぞれ京都と大阪であり。総体は1名、全グレは3名出場。

9月は試合は有りませんでした。国体の強化合宿に参加させてもらい有意義な練習となりました。

10月は、11月の新人戦に向け、練習に明け暮れました。

11月の新人戦は、学校対抗戦と個人対抗戦で頑張り、1月末に千葉県で行われた関東選抜大会は怪我人を除き、1・2年生全員が本大会に出場。

前後しますが、12月の冬休みには、4月に行われるJOC大会の予選を兼ねて、山梨県で行われた全国ブロック合宿に参加。3名が出場権を得ました。

本大会では、記録を報告できる成績を残せませんでした。クラブ員一同、春休みも毎日練習に励んでいます。これからの声援もよろしく願います。また、新入部員を募集して、28年度も華々しい報告が出来るよう頑張りたいと思っております。

### 自動車部

#### ●WORLD GREEN CHALLENGE 2015

ソーラーカーラー(旧WSR)秋田) 8月9日〜11日に自動車部が秋田県大湯村で行われたソーラーカーレースに、出場しました。1日約8時間を3日間走行する過酷な競技で車両・人にも耐久性が求められる



レースです。今回は天候に恵まれ、車両トラブルもなく順調に大会に臨むことができました。今までの最高記録を1周上回り、31周77.5kmを走行し全クラス総合2位、クラス1位、表彰台にあがることができました。

#### 記録

- 1日目 6周 総合2位
- 2日目 12周 総合2位
- 3日目 13周 総合2位
- 合計 31周 総合2位 クラス1位

今回、初めて参加したバイスクル(5時間の耐久ラリー)も好調でSクラス4位入賞はたしました。

#### 記録

- 4周(3・23・37) 総合4位
- ジュニアクラス4位
- 大会ホームページ
- <http://www.wgc.or.jp/>

#### ●Hondaエコマイレージチャレンジ2015

9月19日・20日に今年も自動車部が栃木県ツインリンクもてぎサーキットで行われた「エコマイレージチャレンジ」1日のガソリンの走行距離を競う」に出場しました。今回の大会で学校として29回目の参加になります。今回もオリジナルの燃料噴射制御装置をつけ大会に臨みました。また念願でもあった3台目のデビューもできました。噴射装置の調整が思うようにできず、記録を伸ばすことができませんでした。

- グループII 高校生クラス 148台中 970km/ℓ 21位(キャブレター)

## 運動部

### ●剣道部

今年度も昨年度同様、活発に活動した1年間でした。入部者数は昨年度ほど多くは



## クラブ活動報告

ありませんでしたが、剣道経験のある新入生達と層の厚い上級生達が共に切磋琢磨しながら稽古を重ね、互いに力を伸ばし合っていました。練習方法についても部員同士で相談を重ねて改善し、より技術面、体力面、精神面で成長してくれたと思います。その結果、二月の段位審査では、大森学園高校になっ

532km/ℓ 51位(インジェクション) 3800km/ℓ time over(インジェクション) 大会ホームページ <http://www.honda.co.jp/Racing/emc/> 今年度でエコマイレージチャレンジは本校30回目の出場になります。より上位を目指して2016年の大会に挑みたいと思います。今後も応援よろしくお願いたします。



てから初となる参段の選手も生まれました。ただ残念なことは、春季大会やインターハイ予選といった大会で実績を残すことができなかったことです。新年度は選手一人一人がより一層力を発揮できるよう指導して参りたいと思いますので、応援のほどよろしくお願ひします。

### ●女子バレーボール同好会

たった3人からスタートした同好会でしたが、部員数が初めて10名を超えました。創部に貢献した1期生(3年生)にとつて、部員たちの声援の中で引退試合ができたことは、良い思い出になったことと思います。過半数が初心者という状況は変わりませんが、今年度は公式戦において、勝利を収めることもできました。これも部員のがんばりとともに、今年度よりコーチとして練習を見に来てくださる山下博先生のお陰です。本当にありがとうございます。今後も部員一同、日々練習に励んでいきたいと思ひます。

顧問 酒井 理子

### ●バドミントン部

平成27年度は、3年生13名・2年生15名・1年生11名の合計39名で活動してきました。コート2面という限られた環境の中で、ノックやトレーニング等、練習メニューを工夫し皆で協力して活動しています。

女子も経験者の部員が増え団体戦に出場し2年目になりますが、大分実力をつけました。3年生の引退試合においては3回戦であと二歩と言ったところで敗れ悔しい思いを

しましたが、その思いを後輩が受け継ぎ、2年生が主体になってから1月の高体連冬季ブロック大会では、団体戦で決勝トーナメントに進出し、東ブロック32位の結果を残すことができました。男子も後輩を指導する積極的な部員が増え、同じく冬季ブロック大会で32位の結果を残すことができました。

また、2月に行われた大田区総合選手権大会においても、個人戦で男子シングルス2部優勝・ダブルス4部3位、女子シングルス2部優勝・ダブルス3部準優勝の成績を収めることができました。今後もより上を目指して、部員一同頑張っていきますのでよろしくお願ひ致します。



### ●テニス部

平成27年度のテニス部は、3年生の引退まで約50名で活動しました。新1年生が多く入部し、お互いに高め合うことを意識させながら練習に取り組みました。その結果、上級生に積極的に教わったり、アドバイスをし合いながら技術を磨いたり、自発的に向上しようとする姿が見られました。生活指導面でも引き続き力を入れ、集団としての成長も図れたと思ひます。

都大会ではシングルス個人戦で予選の決勝まで勝ち進む生徒もあり、他の生徒への良い刺激となりました。

今年度も4月中旬から個人戦、5月中旬には団体戦が控えています。過去最高の結果が出せるよう、一人ひとりの心身の成長を促していきます。今後とも皆様の応援、よろしくお願ひいたします。

### ●男子バスケットボール部

卓越した身体能力を持った選手達を要に東京都ベスト32という目標を掲げ日々、練習に勤しんでいます。平日の学校練習に加え休日は他校と練習試合を頻繁に行い、切磋琢磨の中、個とチームの課題を模索しました。秋に行われた新人戦では念願の本大会出場を果たしました。上にコマを進めれば進めるほどチームの課題が浮き彫りにされましたが、どのチームにも臆することなく直向きにゴールを追い求めました。強いだけのチームではなく誰からも応援される魅力あるチームになることが顧問としての切なる願ひです。新

3年生は引退が近づいてきましたが、これまで陰日向無く応援して下さった方々に恩返しできるように全員バスケットで上位進出を目指します。

#### 《試合戦績》

「2015年新人戦支部大会」

○ vs 正則 87:75

○ vs 多摩目黒 72:60

※2年生が修学旅行だったため1年生が戦い見事勝利を収めました

○ vs 関東国際 73:59

※新人戦本大会出場決定

● vs 広尾 80:91

※第1支部ベスト8

「新人戦本大会」

● vs 早稲田実業 73:92

### ●女子バスケットボール部





【部員：20名】

顧問：佐藤 緑子・山之井 義和  
3年生・・・8名（マネージャー1名）  
2年生・・・12名（マネージャー3名）

今年の3月に初めて8名の卒業生を出しました。部員が増えているので活動日・活動時間を増やし活動しています。一生懸命に取り組んだことが形になるよう今後もコツコツと練習に励んでいきます。

●柔道部

27年度は1年生4名、2年生3名、3年生3名、軽量級が主軸となるチームでスタートしました。1年生も経験者が少なく非常にチームとしては厳しい状態でした。4月に行われる関東大会予選は先鋒、次鋒

中堅は73kg以下で構成しなければならぬという特殊な編成の団体戦です。軽量級主体の本校はこの大会を中心に考え、選手のモチベーションを高めていきました。団体戦では1回戦では農大高に3・2で勝利、続く2回戦では東洋高校に2・3で惜敗。敗者復活戦にのみ参加しましたが東京実業に1・4で敗退。都大会出場には至りませんでした。1か月後の5月にはインターハイ予選も行われましたが、やはり重量級が不在というハンデがかなり大きく大柄な選手との対戦では思うように試合を運ぶことができず予選敗退となりました。3年生が引退し、新チームとなった状態でも1年生の初心者が戦力となるためには今まで以上に体力面、スピードの強化が課題です。

9月には東京都独自の大会である、学年

別柔道大会が開催されました。この大会は3人制の団体戦であり、5人制の団体戦よりも1人にかかる責任が大きくなります。支部予選では1年生、2年生ともに東京都大会進出を決めることができました。

11月に開催される支部新人戦では66kg級の西澤君が2回戦で日体荏原の優勝候補の選手と対戦。惜しくも敗退しましたが、僅差まで持ち込み今後に期待できる試合内容でありました。しかし、軽量級での団体戦は非常に苦しいものとなりました。

軽量級主体のチームですが、粘り強さをさらにつけ、強豪校とも対戦できる技量をつけ来年度も頑張っていきたいと思っております。応援よろしくお願いたします。

●陸上競技部

3年生8名、2年生12名に1年生も加わり20名を越すクラブになりました。短距離中長距離・ハードル・走幅跳・砲丸投に分かれ、日々自己記録更新を目指し練習をしています。また、チーム競技ではリレー・駅伝

にも取り組んでいます。昨年度は、東京都支部予選会や支部競技会、全国高等学校駅伝大会東京都予選、東京都支部駅伝といった高体連の大会の他に、大田区陸上競技大会や東京都私立学校陸上競技選手権、六郷グリーン駅伝、東大競技会などの大会に出場しました。

100mH、走高跳、円盤投では、東京都大会への出場を決めました。選手としてだけではなく、高体連の大会では競技者係として大会運営のサポートも行っていきます。今年度は、

1名でも多く東京都大会で勝負することのできる選手を増やし、また、リレーなどのチーム競技でも東京都大会へ出場できるように頑張ります。今後とも応援をお願い致します。

●野球部

野球部は現在三年47名、二年22名、一年25名、マネージャー4名の計98名の部員で活動しています。毎日大田ヌタジウム、駒沢球場、多摩川のグラウンドなど校外の施設を借りて練習をしています。OBの方で練習場所等紹介していただける方がいらっしゃいましたら助かります。

春の大会は予選で朋優学院に2対5で敗退してしまいましたが、その悔しさを糧に部員一丸となり夏の大会に向け練習、練習試合に励んでいます。なお長い間本校のコーチとしてチームに尽力いただいた高橋真里緒コーチ（平成20年卒）が3月で退任し、新たにトレーナーの道に進みました。長い間ありがとうございました。

なお今年も夏の大会前にOBによる壮行会、及びOB会を予定しておりますので、多くのOBの方々のご出席宜しくお願いいたします。

●男子バレーボール部

昨年度は6年ぶりに関東大会に出場することができました。場所は千葉県大網白里市で開催されました。1回戦千葉県ベスト8の幕張総合高校に2・0で勝ち、2回戦は神奈川県準優勝の荏田高校と対戦。なかなか思うようなバレーができませんでしたが、生

徒たちは精いっぱい頑張ってくれました。生徒にとつては大変良い思い出になったのではないのでしょうか。今年も連続で関東大会に出場できるよう、日々練習に励んでいきます。今年も、平均身長がそれほど高いわけでもないので、拾ってつなぐ粘りのバレーを追求していきます。



私学大会では3年連続でベスト8に入ることができ、その結果3月には全国私学大会に出場しました。これに満足することなくこれからも精進していきますので応援の程よろしくお願致します。

また、退任されました山下下先生にも引き続きチームを見ていただいています。OBOGの方々、練習への参加も心よりお待ちしております。

男子バレーボール部のブログです。よかったら見てください。  
<http://blog.goo.ne.jp/ojimesu/>

昨年度の結果は以下の通りです。

関東予選 都ベスト16位 決定戦2勝  
関東大会 2回戦敗退

私学関東大会Aブロック出場

都私学大会夏 都ベスト8位

都全日本選手権大会 都ベスト8位

都新人大会 都ベスト16位

都私学大会冬 ベスト8位

さくらバレー(全国私学大会場) 出場

(2勝2敗)

### ●サッカー部

顧問 尾島 寛

須藤 健

現在、齋藤 幸男総監督を筆頭に監督、部長、顧問の教員4人、元日本代表選手を含めた4名の外部コーチでスタッフ陣を構成しております。約100名の部員を4つのカテゴリーに分け、常に競争する状況を作り出し、各カテゴリー毎に試合をこなすことでレベルに応じて実戦経験を積ませています。昨年の選手権都予選は5回戦敗退と目標である「西が丘」にとどまらなかったが、今年こそは齋藤総監督を「西が丘」で胴上げする為にスタッフ選手一丸となって邁進する所存です。幸男先生のまさにラストイヤーとなります。OBの皆様と共に聖地「西が丘」に立ちます。

この春トップチームは、茨城の下妻カップ、古河サッカーフェスティバルから始まり全国各

地の大会に招待され強化を図って来ました。

市原ユースカップ(千葉)、宇治招待(京都)、福井U・18大会(福井)に参加し全国の強豪と互角以上に渡り合いました。しかし本番は選手権です。ここで勝たなければ春に勝つても全く意味がありません。選手権で全国を目指さなければ、目標である「西が丘」の舞台に立つことは叶わないでしょう。全ての部員が大森学園高校サッカー部の大切な一員であることを自覚し、誇りを持って戦い続ければ、必ず目標を達成出来ると信じています。

大森学園高校サッカー部に関わる全ての方々が誇れるチーム作りを目指しておりますので、ご理解ご協力、そして熱いご声援をお願い申し上げます。

### ●卓球部

イベントホールで週5日練習に励んでいます。今年の部員は3年が4人、2年生が1人、1年生が3人の合計8人で活動していました。

今年は練習メニューを大幅に変えて、東京都ベスト32を目標に日々の練習に取り組んでいきました。卓球マシンを有効に使い、きちんとしたフォームで打球できるようにできています。部員全員がやるからには勝ちたい、強くなりたいという向上心にあふれています。また練習メニューを生徒たち自身で改良するなどの工夫、個人の課題を見つけたことが、大変喜ばしい成長です。

これからも、卓球を通して部員たちが成長して、よりよい人生を歩んでいってほしいと願っています。

今後ともご支援の程宜しくお願い申し上げます。

今後ともご支援の程宜しくお願い申し上げます。

### 文化部

#### ●囲碁将棋

平成二十七年度は一年生が6名、二年生が1名、三年生が5名と計7名で活動してきました。

主な大会は、将棋部門では春と秋に行われる全国高等学校将棋選手権大会東京地区予選の個人戦に全員がエントリーしています。将棋は、ほとんどが初心者で駒の進め方を知っているくらいでしたが、夏休みから詰将棋を始めるとめきめき上達し始め、大会でも何回か勝てるようになってきました。また、囲碁部門では一人三段を持つ生徒がいます。東京都高等学校囲碁大会のBグループに参加しています。時間があるときなどは、異なるゲームをして気分転換をしたりします。いつでも和気あいあいとやっているクラブです。

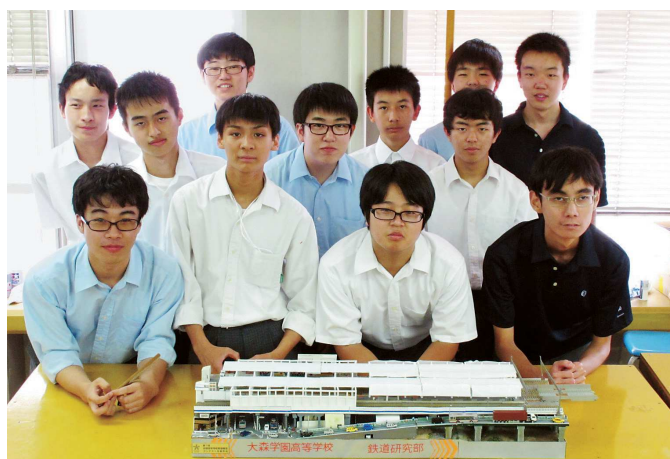
囲碁将棋部では挨拶や先輩、後輩の上下関係などを理解させて社会でも通用する人になるように指導していきたいと思っています。

これからも、ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

#### ●鉄道研究部

平成二十七年度は3年生 5名、二年生 5名、一年生 5名の合計15名の部員で活動しました。おもな活動内容として学園祭

に向けた大型レイアウト製作やNゲージ車両製作、部員が持ち寄ったの鉄道模型運転会





など、週三回の活動を積極的に行いました。とくに、毎年参加している、全国高等学校鉄道模型コンテストでは東急田園都市線・二子玉川駅周辺を模型化し、特に大井町線と田園都市線のホームの製作に時間を費やしました。結果は全国から百十校余りの参加作品の応募があり、毎年上位入賞を目指して製作していますが、今回の結果は「審査員特別賞」の成績を上げる事が出来ました。また、今回の夏合宿では東京駅を起点に中央本線を制覇しました。一日目は塩尻・松本経由で長野駅まで行き、二日目は塩尻経由で名古屋駅まで十八キップを使用し実施しました。名古屋市内は班別行動を実施し名鉄や名古屋市営地下鉄などの電車に乗り最後にJR東海のリニア鉄道博物館に全員で見学に出かけました。学園祭では大型レイアウトによる運転会や生徒鉄道写真展示・鉄道グッズの展示発表などを中心に行っております。是非今年も、OBの皆様の来校を楽しみにしております。今年の高校生鉄道模型コンテストは八月六日(土)〜七日(日)の二日間、東京ビックサイトで開催されます。是非、見に来てください。応援よろしくお願いたします。

(桐山記)

### ●放送・演劇同好会

お昼の放送「All Noon Japan」をナビゲートしてきましたが、実は毎回ボイスレコーダーで録音し、放送を流してきました。その為ノイズが酷く、聞きづらいというアンケート結果により、今年度3学期より放送を中止して

いました。来年度は、歌を中心とした生放送を計画しています。東京都演劇連盟の地区大会に初めて参加しました。生徒自身で台本を作成し、照明も自分たちで操作し、表現してきました。メンバーが3年生と共にいなくなってしまうのは残念ですが、新たな気持ちでスタートできたらいいですね。

顧問 増田 宇

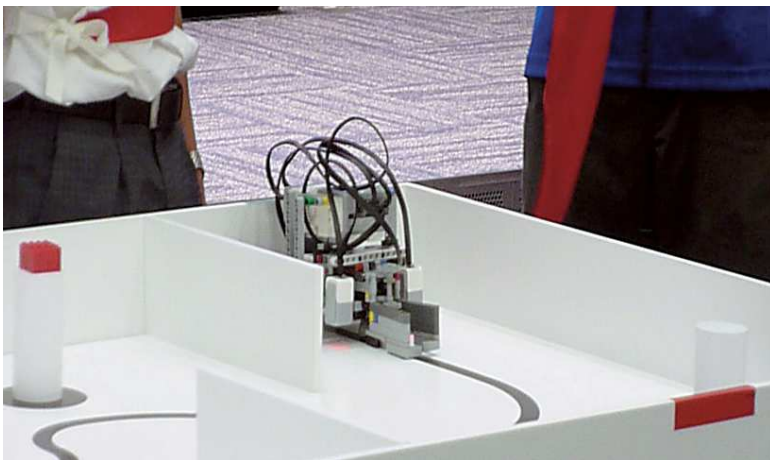
### ●ロボット研究部



一学期は、八月に開催される電子ロボと遊ぶアイデアコンテスト日本予選会に向けて課題の試走コースの作成をし、レゴロボット本体の作成および、課題を攻略するためのレゴマインドストームのプログラムの作成を行い、課

題の攻略を目指しました。八月の本大会では、五位と遅くも入賞を逃してしまいました。がよく健闘したと思います。

二学期以降は、パソコンソフトのバージョンアップを行うとともに、二月に行われるロボットパフォーマンス大会参加するために課題に即したロボットを作成し、課題のコースを攻略するためのプログラムの作成を行い、課題の攻略を目指しました。しかし本番の直前に部員がインフルエンザにかかり、残念ながら、大会出場をあきらめなくてはなりません。次年度も一人でも多くの新入部員を迎えて、各大会の入賞を目指したいと思います。左記は、アイデアコンテストの様態です。



### ●美術部

今年度は女子生徒の新入部員も増え、なにかと賑やかな活動風景も見られました。ただ好きなように絵を描くだけでも十分楽しいのですが、やはり部活としてやるなら基本も大事だと考えます。プロジェクトで3Dモデルを投影してランダムにポーズをとらせ、1分間で模写する練習も取り込みました。また、美術専門学校の講師の方をお招きし、シルバークセサリーの制作を行ったり、イラストの基本を教えてもらったりしてみたり、非常に好評でした。

昨年に引き続き、夏休みの小学生サマースクールでの万華鏡づくりの手伝いも生徒たちが頑張ってくれました。1月に大田産業プラザで開催された、ものづくり学習フォーラムの会場ではコンピュータを使った合成写真のコナーを担当してもらい、大勢のお客さんを楽しませることができました。ボランティア活動も通って二回も二回も成長してくれたのでは、と思います。

### ●模型部

昨年度の学園祭のあと、OBから後輩へのプレゼント、ということで「ネオ・ジョング」という完成時には85センチにもなる巨大なキットが贈られました。せっかくだから今年度の学園祭までに完成させて展示し、先輩たちにも見てもらおう、とプロジェクトチームが発足し、夏休み中にも協力して制作や塗装に取り組んでいました。それ以外の活動として模型を少しずつ動かしながら静止画を撮

影し、連続で表示させる「コマ撮り動画」に挑戦する生徒たちも現れ、ただ組み立てるだけでない発展を見せるようになってきています。基本生徒たちがやってみたいことを尊重し、顧問としてはその後押しをしてあげるのが指導方針です。そして余裕があるときには彼らと一緒に様々な話を花を咲かせながら私自身も購入してきたプラモデル制作に取り組んでいました。

生徒以上に顧問のほう楽しんでいましたよな気がします。

### ●ブラスバンド

昨年度から、2年生の3月末にある定期演奏会をもって上級生が引退したため、4月からは2年生15名に新入生20名を加えた合計35名で活動をスタートしました。昨年度の活動の様子を簡単に紹介させていただきます。

新体制での最初の大きな行事は5月末、学校のすぐ近くの諏訪神社のお祭りでの演奏でした。その後、6月の体育祭、7月の野球部の応援、8月の吹奏楽コンクール、9月の学園祭で演奏する一方、「社会を明るくする運動」や「大森町商店街サマーフェスティバル」など地域イベントにも参加しました。10月・11月も福祉作業所ふれあいまつりや折り紙ヒコーキ大会などのイベントで演奏。12月からは、ブラスバンド部最大の行事である定期演奏会に向け本格的に練習を開始しました。3月26日に開催された「第3回定期演奏会」では、第一部では吹奏楽の定番曲、第



II部は学年ごとに企画したステージ、III部ではポップス曲と、アンコール曲も含め全11曲を披露しました。III部はOB・OGも加わり、部員たちにとっても印象に残る演奏会となりました。当日は多くのおみなさまにお越しいただき本当にありがとうございました。昨年度もブラスバンド部の活動を通じて部員たちは様々な年代・職業の方々と関わり、たくさんの方を学ぶことができました。多くの方がブラスバンド部の活動を支えてくださったことに感謝しております。今年度も

皆さまに喜んでいただけるような演奏活動をしたいと思えます。

顧問 石川和弘

### ●書道部

昨年度は部員数が10名を越えて活気が出てきました。女子勢力が強いなか、3年電気科の男子部長が神経を擦り減らしながら全体をまとめてくれて感謝しています。活動は、書道会誌上の手本を模写して書技を学ぶという地道な練習が主でした。彼女たちは手本を眺め、筆も動かしていましたが、専ら女子特有のお喋りで口を動かさし、書道ではない何かを楽しんでいたとも言えます。ただ、この会の目的のつは「人間関係づくり」にありますので、あながちその目的から外れたものではなかったわけです。とはいえ、学園祭は腕の見せ所ですから、全員で大作に挑戦しました。部長の指導のもとに裏打ち（表装の一手手前）の経験もしました。お客様からも好評でしたので、今後の活動の糧になったことでしょうか。今年度の活動もこれまでと大きく異なることはないと思います。楽しい雰囲気の中で少しでも書技を磨くことができ、そして親交まで深めていければと思っています。

### ●ボランティア活動車いすメンテナンス

平成27年度、車いすメンテナンスは3年生1人、2年生2人、1年生5人の計8名で活動を行いました。6月に本校で行った「車いす修理会」では、スリランカに22台、さらに3月にも「車いす修理会」を行い、フィリピ



ンに10台の車いすを寄贈しました。修理会だけでなく、日常の取り組みでさらに10台の車いすをスリランカに寄贈することができました。とてもよい経験ができたと感じています。また、海外への寄贈以外にも月に一度、特別老人ホームでの修理活動も行いました。お年寄りと一緒に感謝の声をいただくなど気持ちの面でも達成感を得られたと思います。これらのボランティア活動によって、東京都社会福祉大会にて都知事から感謝状をいただくことができました。一つの励みとしてこれからも努力していきたいと思っています。